

注意事項をよくお読みください。

先週の動きと今週の見通し No.640

(2015年10月5日～2015年10月9日)

ポイント

- ◇ 米利上げ観測遠のく
- ◇ 金融緩和長期化を意識した相場展開
- ◇ ドル円は底堅く推移

		先週末値	今週の予想			
			→	もみ合い	↓	
短期金利	無担保(翌日物)	0.076 %	→	もみ合い	0.070 ~ 0.100 %	
	円TIBOR(3ヶ月)	0.171 %	→	もみ合い	0.170 ~ 0.180 %	
長期金利	新発10年債	0.315 %	↘	金利低下	0.280 ~ 0.360 %	
	先物中心限月	148.37 円			148.00 ~ 148.60 円	
円/円スワップ	5年	0.19 %	↘	金利低下	0.15 ~ 0.20 %	
	10年	0.50 %			0.45 ~ 0.53 %	
米国金利	ドルLIBOR(3ヶ月)	0.327 %	↗	金利上昇	0.32 ~ 0.34 %	
	T-Note(10年)	1.993 %	↗	金利上昇	1.90 ~ 2.20 %	
株式相場	日経平均	17,725.13 円	↗	上昇	17,300 ~ 18,700 円	
	NYダウ	16,472.37 ドル	↗	上昇	15,750 ~ 17,000 ドル	
為替相場	ドル・円	119.91 円	↗	ドル上昇	119.00 ~ 122.00 円	
	ユーロ・ドル	1.1216 ドル	↘	ユーロ下落	1.1000 ~ 1.1500 ドル	
	ユーロ・円	134.46 円	↘	ユーロ下落	131.00 ~ 137.00 円	

ウィーリー コメント

チーフストラテジスト 高梨 彰

Fedの失敗

米雇用統計受けて、株高

アメリカの雇用統計が出てきました。市場では「米国経済にはそれほど力強さはないかもしれない」との連想が働く一方、同時に「それならば Fed (Federal Reserve: 米連銀) は利上げ開始を先送りさせるかもしれない」との思いも巡らせました。こんな市場心理から、雇用統計公表直後こそ米経済への不安から株安にて反応したものの、間もなく「利上げ先送りならば」とばかりに株高へと転じています。

雇用鈍化、市場には意外感

雇用統計のなかでも市場の関心が最も高い非農業部門の雇用者数増減、9月分は14.2万人増でした。市場予想の20万人増と比較すると弱めの値です。加えて、7月・8月分の雇用者数も下方修正されています(図表1)。ここ数年、均してみると20万人台の伸びが続いてきたため、8月(13.6万人増)・9月と連続して10万人台前半の伸びに留まったことには、市場でも意外感をもって受け止められたようです。

雇用鈍化、株価急落時と重なる

また8・9月といえば、中国や新興国経済の先行き不透明感と Fed の利上げ開始に対する警戒感から、株価急落をはじめとしてリスク資産価格が大きく値を下げた時期と重なります(図表2)。(以下次頁)

注意事項

*当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とに拘わらず、**弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。**また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。

*また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。**取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。**

米企業心理、慎重なままか

(前頁より続く)雇用統計と金融市場の動揺との因果関係について断定的なことは申し上げられませんが、株安を受けて企業が雇用に慎重な姿勢をみせたとなると厄介です。2008年の金融危機以降、設備投資の伸びが今一つである理由に「リスクを取って投資をすることに企業が慎重になった」との意見を聞くことができました。この夏の雇用者数が伸び悩んだ理由が金融市場の動揺にあるならば、2008年から7年経っても、米企業の経営に対する心理は慎重なまま、となってしまいます。

金融緩和の効果は...

米企業の姿勢が慎重な中では、金融緩和を行っても景気刺激には繋がらず、金融緩和によって増えたおカネは金融市場に滞留し続けます。資産価格上昇が資産効果として消費拡大に繋がれば景気も刺激されるのですが、消費に過熱感が出ていないことを勘案すると、この経路による景気拡大は期待薄です。または、「超」低金利政策とか「史上類を見ない」金融緩和と言われた世界的な金融緩和が、世界経済を刺激するには規模が足りなかった、という仮説を立てることも可能です。どちらにしても、Fed が示してきた景気見通しとは異なる姿が眼前にはあります。

当局の言葉、信じられず

あらゆる政策において、将来を見据えた上で早めに行動するフォワードルッキング(forward-looking)な姿勢が大切と言われます。Fedの金融政策も将来のインフレ率上昇に備えるため、「利上げ開始が望ましい」との立場です。しかしFedは利上げ開始の条件として「データ次第(data dependent)」との立場も示しています。データは過去のもの、または現時点のものです。温故知新となればよいものの、見通しにズレが生じているため将来を見据えることが難しくなり、足元のデータに金融政策が振り回される構図が出来上がってしまっています。米雇用統計は1.4億人からいる雇用者数の変化が数万人外れただけで大きな相場変動へと繋がる場所にゲームとしての楽しみはあります。しかし、金融政策決定が雇用統計直後の動きと同じような振れ幅を伴ってしまえば、当局からの言葉も最早信じられませんか。

「データ次第」は失敗

「データ次第」が失敗した結果として、今夏の動揺が起こったようにみえます。残るは「年内に利上げを開始する可能性が高い」です。雇用統計だけでなく物価関連統計をみても慌てて利上げをする必要はなさそうにみえます。それでも「将来に備えて」利上げを開始するならばそれでも構わないのですが、「データ」は必ずしも利上げ開始を後押ししていません。ここで「年内利上げ開始」が無くなると、Fedからの言葉はますます信じられなくなってしまいます。

緩和的環境が継続

市場変動率が大きい状態では、利上げ開始に踏み切るとは難しいと思われれます。Fedを後押しするには市場変動率低下が求められますが、その処方箋は金融緩和長期化や追加金融緩和観測など「緩和的な金融環境の継続」です。これはFedだけでなく日銀やECB(European Central Bank:欧州中央銀行)などにも当てはまります。そんなこんなで、日銀にも追加金融緩和観測が高まる次第です。

率直に、Fedは市場に気を遣い過ぎといった印象です。かえって隠れたリスクを把握しているのではないかと、疑心暗鬼になってしまいます。

図表1: 米非農業部門雇用者数変化(前月比)



出所: Bloomberg、りそな銀行

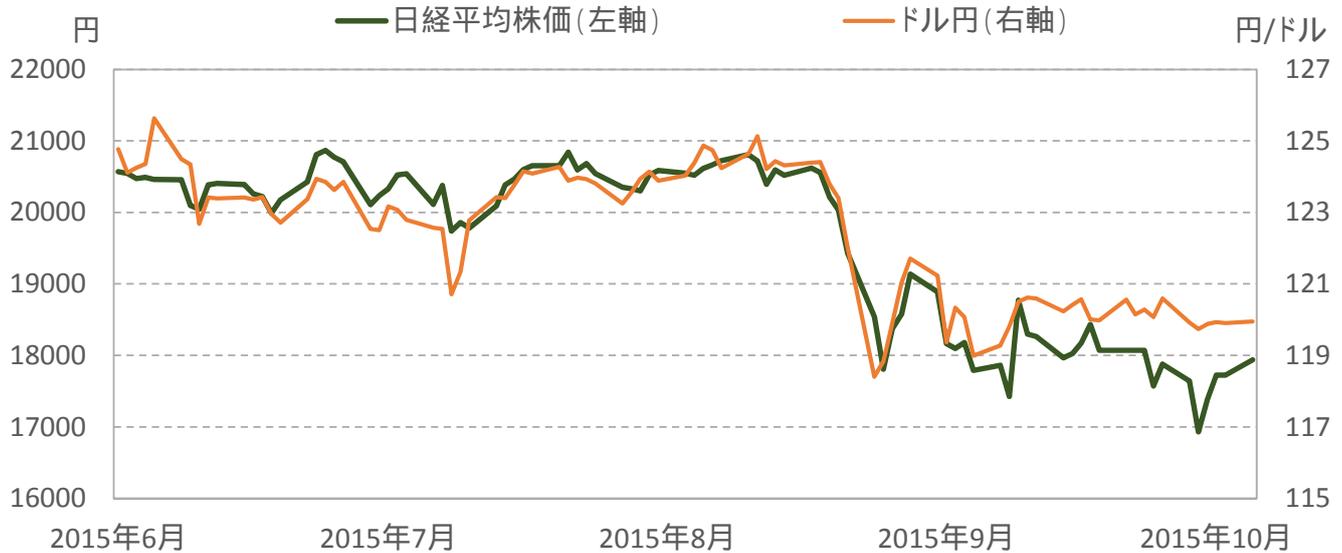
図表2: NYダウ推移



出所: Bloomberg、りそな銀行

今週のひとコマ

図表3: 日経平均株価とドル円の推移



出所: Bloomberg、りそな銀行

日本株とドル円

米利上げ観測後退も、ドル円は円安方向

日本株とドル円の関係が重視される

投資行動にも慣習的に出てくる

暫くは、「日本株高 円安」か

米雇用統計発表直後、株価とドル円は「株安・円高」となりました。リスク回避的な姿勢が意識されたものです。しかし、程なく「株高・円安」へと転じています。米FRB(連邦準備制度理事会)による利上げ観測が後退し、これが株高に繋がったものです。

しかし、米利上げ観測が後退するのであれば、米金利上昇の芽がなくなり、米ドル売りになるはずですが、確かに、一時ドル円は118円台半ばまで円高が進みましたが、結局は円安方向に進んでいます。

日経平均株価とドル円のチャートを並べると、概ね同じような動きをしています(図表3)。理屈の上では「円安を受けて輸出企業の業績が上向くため、株価は上昇」となります。

ただ、日経平均株価に採用されている銘柄(企業)の中には、円安よりも円高の方が、企業業績が改善するものも少なからずあります。

それでも「株高・円安」・「株安・円高」の図式が概ね当てはまるのは、投資の実態による部分が影響している可能性が考えられます。

海外投資家を中心に、「日本株を買う」とときには同時に「円を売る」行動を取る、というものです。元は確かに輸出企業を基準とした投資行動であるはずですが、今日では半ば慣習的にこの図式が成立しています。

言い方を換えれば、日米金利差の影響よりも、元からある日本株とドル円の関係の影響の方が、足元の相場では変動要因として大切、とも言えます。

年単位で相場をみますと、金利差は変動要因として重要な要素ではあるのですが、日々の相場の中では時として金利差よりも重要視されるものが出てくるのも事実です。

ここ暫くは、日本株が上がり易いときには、ドル円も円安・ドル高へと傾き易いようです。

各マーケット・コメントは 10月5日(月)09:00 現在

表紙の注意事項をよくお読みください。

外国為替市場

米ドル

予想

ドル円:

ドル円は上昇

119.00 - 122.00 円

先週のドル円は下落。世界的な株価下落を受けて、週初よりドル売り円買いが強まり、ドル円は 119 円台前半まで下落した。その後は、原油相場の反発、アジアや欧州株の反発、ユーロ圏 CPI の弱い結果などを受けながら、ドル円は 120 円付近での値動きが続いた。一方、週末に弱い米雇用統計の結果を受けて、一時 118 円 68 銭まで下落する場面があったが、株高と共に、程なく 120 円付近まで値を戻した。

今週のドル円は上昇を想定。先週末の米雇用統計の結果を受けて、米株が上昇した流れを引き継いで、米株高に支えられながらドル円も上昇する展開を想定。また、週後半まで中国株式市場の休場も重なり、世界の株式市場が安定しドル円相場にも落ち着きが見られるだろう。一方、木曜日以降は休み明けの中国株の動向には注意が必要。(中條)

ユーロ

予想

ユーロ円:

ユーロ円は下落

131.00 - 137.00 円

ユーロドル:

ユーロドルは下落

1.1000 - 1.1500 ドル

先週のユーロ円は下落、ユーロドルは上昇。ユーロドルは9月ユーロ圏CPIが前年比マイナスとなったことを受けてECB(欧州中央銀行)に対する追加金融緩和が高まる中、上値の重い展開となった。しかしながら、弱い米雇用統計を受けてドルが軟化したことで小幅上昇して終了した。一方、ユーロ円は、円が底堅く推移したことを受けて小幅安で終了。

今週のユーロ円、ユーロドルは共に下落を想定。ユーロ圏CPIが前年比マイナスとなり、ドイツの主要経済指標にも一部で弱さがみられるようになってきており、ECBに対する追加金融緩和への思惑からユーロは対ドル、対円で共に弱含みで推移する展開を予想する。ただ、今週はドラギECB総裁の講演が予定されているが、追加金融緩和に関しては慎重な姿勢も示しており、ユーロの反発を警戒する向きから一方向での売りは想定しづらい。(岩城)

豪ドル・NZドル

予想

豪ドル円:

豪ドル円は下落

82.00 - 87.00 円

NZドル円:

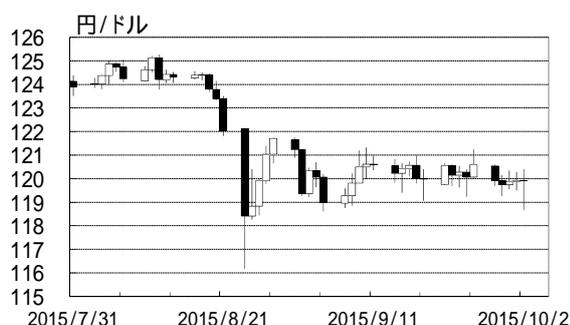
NZドル円は下落

75.00 - 79.00 円

先週の豪ドル円は下落、NZドル円は上昇。豪ドル円は低調な中国の工業部門の企業利益を受けて、週の序盤は売りが優勢。一方、原油相場が反転すると次第に買い戻される展開となった。しかしながら、円が底堅く推移する中、上値は重かった。NZドル円も週の序盤は売りが強まったが、売りが一巡すると買い戻し優勢の展開となった。軟調な米雇用統計を受けて米ドル売り・NZドル買いが強まったこともNZドル円の上昇につながった。

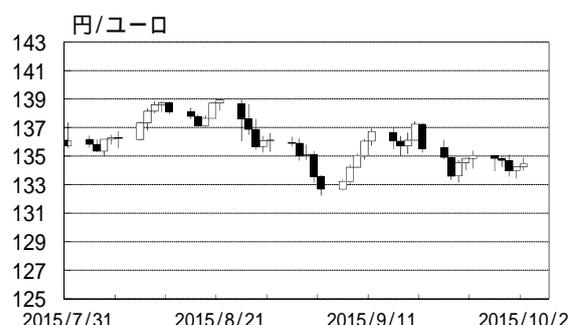
今週の豪ドル円、NZドル円は共に下落を想定。今週の豪中銀理事会では政策金利は2.00%で据え置かれる見通し。しかし、声明文で中国経済の減速が与える影響について踏み込んだ表現が加わり、追加利下げへの思惑から豪ドル円は再び弱含むことが予想される。NZドル円は、買い進むための材料が見当たらず、軟調な豪ドル円につられて弱含みで推移しよう。(岩城)

図表4: 米ドル円



出所: Bloomberg, りそな銀行

図表5: ユーロ円

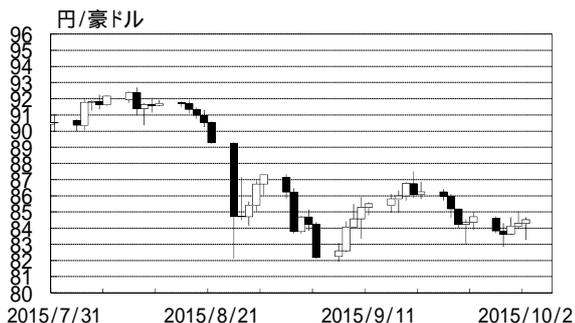


出所: Bloomberg, りそな銀行

各マーケット・コメントは 10月5日(月)09:00 現在

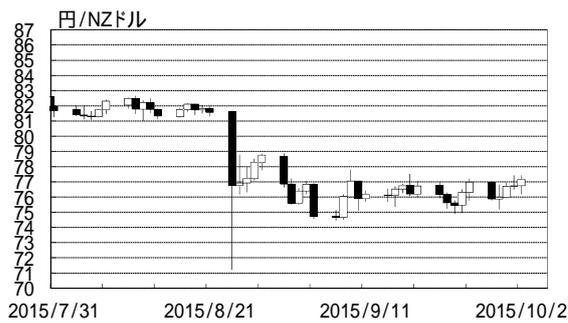
表紙の注意事項をよくお読みください。

図表6: 豪ドル円



出所: Bloomberg、りそな銀行

図表7: NZドル円



出所: Bloomberg、りそな銀行

債券市場

国内

予想

金利は低下

TIBOR(3M): **0.170 -0.180 %**

長期金利(新発 10年債):

0.28 -0.36 %

先週の国内債は上昇(金利は低下)。週の前半は株価下落を受けて買いが入るも 10 年債入札や期初の益出し売りが警戒される中、買い進む動きはみられず。一方、10 年債入札を無難に通過すると入札に備えてヘッジ売りをしてきた向きからの買い戻しが入るなど、買いが強まる展開となった。また、日銀金融政策決定会合を控える中、追加金融緩和への思惑も買いにつながった模様。

今週の国内債は上昇を想定(金利は低下)。今週は日銀金融政策決定会合が開かれ、追加金融緩和への思惑から底堅い地合いとなるだろう。今週の会合で追加緩和が実施される可能性は低いが、10 月末の決定会合までは追加緩和期待が続きやすく、今週の決定会合で目立った動きがなく一旦売りが出た後も底堅い展開は続くだろう。尚、流動性供給入札や 30 年債入札は無難に通過する見通し。(岩城)

米国

予想

金利は上昇

ドル LIBOR(3M):

0.32 -0.34 %

T-note(10年): **1.90 -2.20 %**

先週の米国債は上昇(金利は低下)。低調な米経済指標を背景にしっかり。弱い米雇用統計の発表を受けて、残存 2-5 年の債券を中心に買い戻しが強まり、週末を前に上値を試す展開となった。10 年債利回りは 2%を割り込み、一時 1.90%近辺まで低下する場面もみられた。

今週の米国債は下落を想定(金利は上昇)。年内利上げ観測の後退を受けて、株が底堅く推移することが予想され、債券は上値の重い展開となるだろう。加えて、今週予定されている入札も債券相場にとって重石。今週は 9 月 FOMC の議事録が公表されるが、ここでの意見には 9 月下旬に掛けて公表された経済指標や先週末に発表された米雇用統計の内容は反映されておらず、FOMC 後に FRB 高官が相次いで年内利上げを支持する発言をしたことから、金利低下を促す内容とはならないだろう。(岩城)

図表8: 日米短期金利



出所: Bloomberg、りそな銀行

図表9: 日米長期金利



出所: Bloomberg、りそな銀行

各マーケット・コメントは 10 月 5 日(月)09:00 現在

表紙の注意事項をよくお読みください。

株式市場 日経平均

予想

日経平均は上昇

17,300 - 18,700 円

先週の日経平均は下落。週初、日経平均株価は 17,700 円近辺で推移したものの、火曜日に中国景気に対する懸念や欧米株安などを嫌気し、日本株は全面安の展開。今年 1 月以来 17,000 円を割り込んだ。一方、週半ば以降は四半期末のお化粧品買いや中国の景況感指数の上昇などを受けて、幅広い業種に買いが入り、火曜日の下落分を埋める形となった。

今週の日経平均は上昇を想定。週後半までは、中国の景気減速に対する懸念が和らぎ、日本株は戻りを試す展開となろう。また、先週末の米雇用統計の結果を受けて、欧米株の上昇と共に、日本株も上昇しよう。ただ、米利上げ開始時期の見極めや中国経済の景気減速懸念などから、一方向での上昇は見込まず注意が必要。その他、6-7 日の日銀金融政策決定会合と黒田総裁の発言に注目が集まる。(中條)

NY ダウ

予想

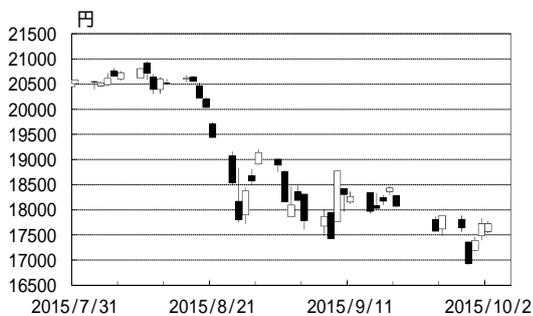
ダウは上昇

15,750 - 17,000 ドル

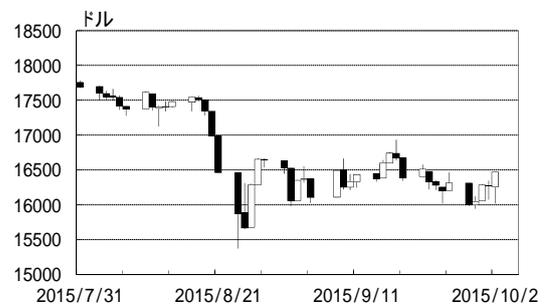
先週のダウは上昇。週前半は欧州自動車株やスイス資源大手株などが値幅を伴って売られた流れに追随する形で売りが先行。その後は値ごろ感からヘルスケア株などに買い戻しが入るも、弱い ISM 製造業景況指数などが重石となって上値重く推移。軟調な米雇用統計を受けて再度売りが強まる場面もあったが、年内利上げ観測が後退する中、その後は買い戻し優勢となり、前週比プラス圏まで上昇して取引を終了。

今週のダウは上昇を想定。先週の米雇用統計の内容を受けて米国では年内利上げ観測が後退した一方、欧州や日本では追加金融緩和への期待が高まっており、各国の金融政策が意識される形で、底堅い値動きとなる展開を予想する。ただ、今週から米国での企業決算が本格化し始めるが、足元の製造業関連の経済指標は軒並み弱く、ドル高や原油・資源価格の下落を受けて低調な決算内容となることも予想され、上値は押さえられるだろう。(岩城)

図表10: 日経平均



図表11: NY ダウ



出所: Bloomberg、りそな銀行

出所: Bloomberg、りそな銀行

中国株

下落、7 連休を前に取引量は低調

は低調

中国株は下落。低調な工業部門の企業利益を受けて、当局による景気刺激策への期待感から買いが先行。一方、その後は戻り売りに押される形で一旦反落。しかしながら、政府が小型エンジン搭載車の販売税を半減させるとの発表などを受けて自動車株を中心に下げ幅を縮小させた。尚、10 月 1 日からの国慶節の連休を前に、積極的な取引は手控えられた。(岩城)

インド株

上昇、政策金利を 0.5% 引

下げ

インド株は上昇。低調な中国経済指標を受けて輸出の鈍化が懸念され、売りが先行。一方、インド準備銀行(中央銀行)が政策金利を 7.25% から 6.75% に引き下げるなど市場予想(7.00%)以上の利下げを実施したことが好感され、その後は堅調に推移した。(岩城)

ブラジル株

上昇、国営石油会社主導

で反発

ブラジル株は上昇。中国の工業部門の企業利益が落ち込んだことが嫌気され売りが先行。一方、レアル安を背景に燃料価格を引き上げると発表した国営石油会社を中心にその後反発。加えて、低調な米雇用統計を受けて米国での年内利上げ観測が後退し、週末を前に上げ幅を拡大させた。(岩城)

各マーケット・コメントは 10 月 5 日(月)09:00 現在

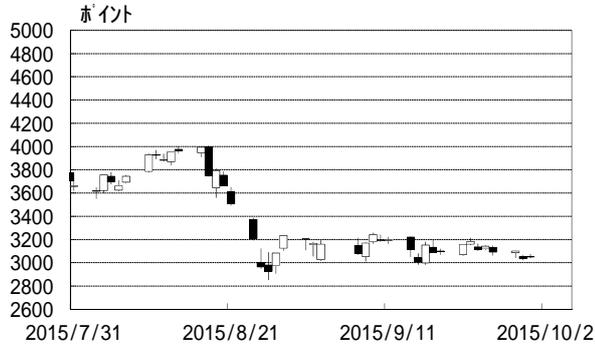
表紙の注意事項をよくお読みください。

ロシア株

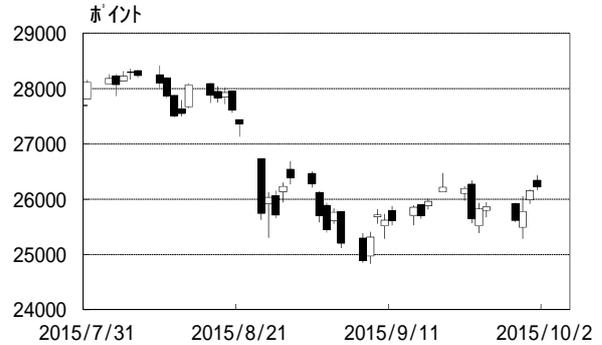
下落、地政学リスクが意識される

ロシア株は下落。軟調な中国経済指標を受けて売りが先行するも、ブレント原油先物価格の上昇を受けて一旦反発。しかしながら、ロシア軍によるシリア空爆がイスラム国ではなく反アサド勢力を狙ったものだと、米国が批判するなど地政学リスクが高まると再度売られる展開となった。(岩城)

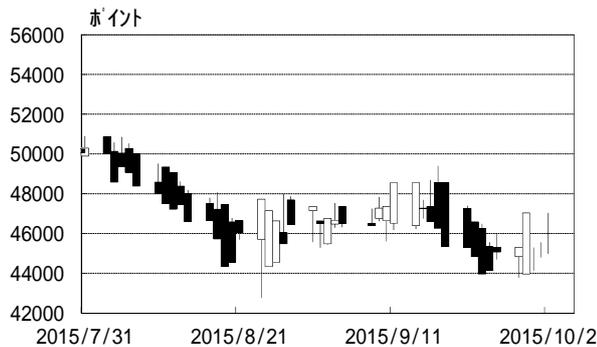
図表12: 中国上海総合指数



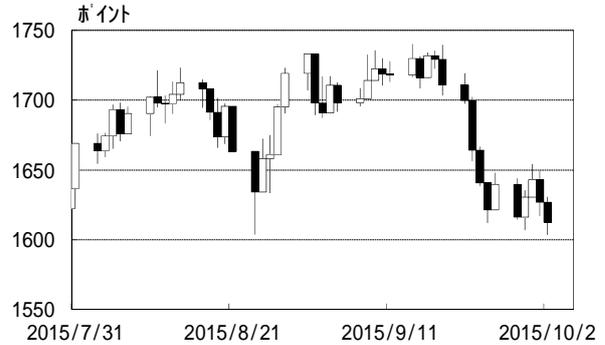
図表13: ムンバイ SENSEX 指数



図表14: ブラジル BOVESPA 指数



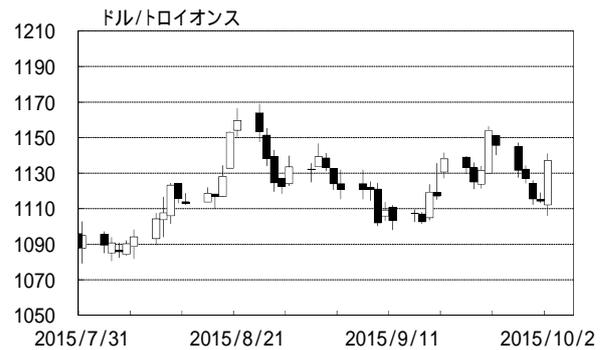
図表15: ロシア MICEX 指数



図表16: WTI 原油先物(期近物)



図表17: NY 金先物(期近物)



出所: Bloomberg、りそな銀行

出所: Bloomberg、りそな銀行

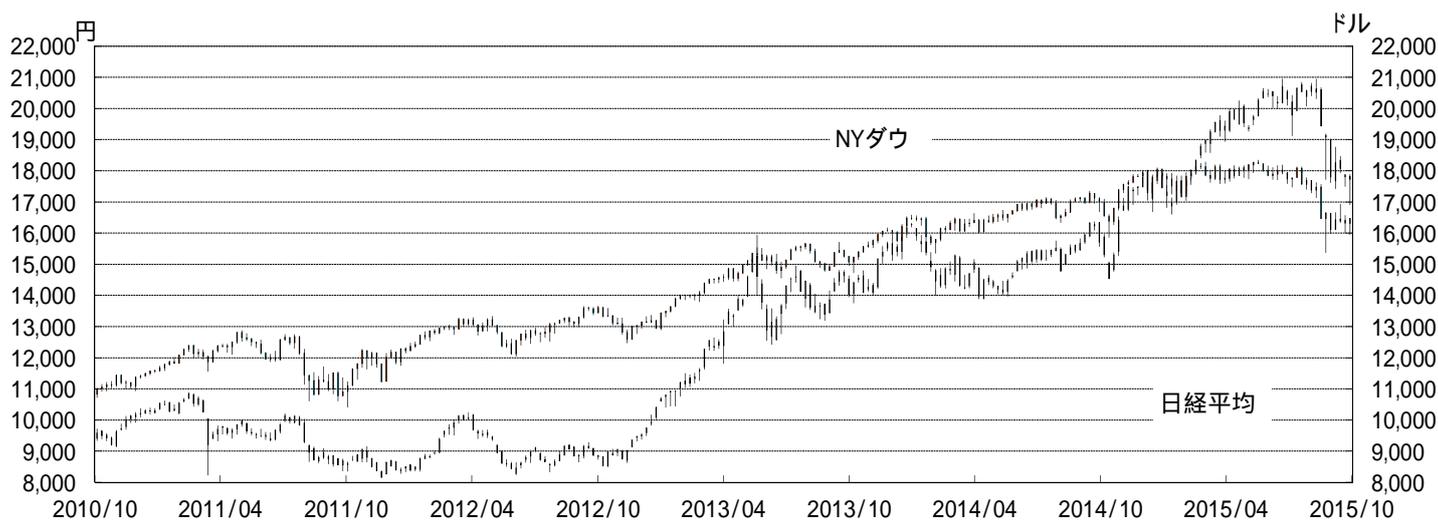
作成 : りそな銀行

総合資金部

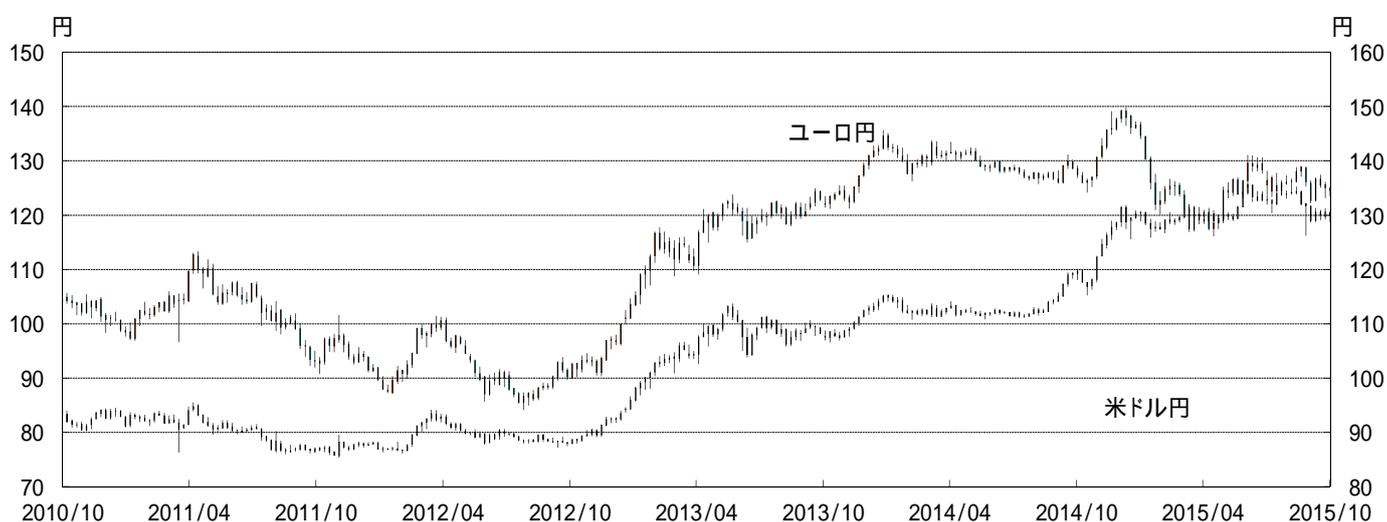
高梨 彰
岩城尚也
中條仁美

過去5年間の相場推

図表17: 日経平均(左軸)とNYダウ(右軸)



図表18: 米ドル円とユーロ円



図表19: WTI原油先物と日本10年金利



出所: Bloomberg、りそな銀行

各マーケット・コメントは10月5日(月)09:00現在

表紙の注意事項をよくお読みください。

マーケットカレンダー

	日本	米国	その他
9/28(月)		8月個人所得・消費支出 8月中古住宅販売成約指数	< 香港 中秋節の翌日 >
9/29(火)	2年債入札	7月S&Pケースシター住宅価格指数 9月消費者信頼感指数	(独)9月CPI
9/30(水)	8月鉱工業生産 8月住宅着工件数 8月商業販売統計 8月毎月勤労統計	9月ADP民間雇用調査 9月シカゴ地区製造業PMI	(EU)9月HICP (EU)8月失業率
10/1(木)	7-9月期日銀短観 10年債入札 国庫短期証券(3ヶ月)	8月建設支出 9月ISM製造業景況感指数	(中)9月PMI製造業 < 香港 国慶節 > < 中国 国慶節(-10/7) >
10/2(金)	8月家計調査 8月雇用統計 9月マネタリーベース	9月雇用統計 8月製造業受注	(豪)8月小売売上高 < 印 マハトマ・ガンジー誕生日 >
10/3(土)	<p>DI — 現状判断 — 先行き判断 よくなっている 悪くなっている 09/8 10/8 11/8 12/8 13/8 14/8 15/8 出所: IN情報センター、りそな銀行</p> <p>豪・政策金利 % 5 4 3 2 1 0 10/9 11/3 11/9 12/3 12/9 13/3 13/9 14/3 14/9 15/3 15/9 出所: Bloomberg、りそな銀行</p> <p>コンセンサス予想: 現状判断DI: 49.0 8月期実績: 49.3</p> <p>コンセンサス予想: 2.00% (9月実績: 2.00%)</p>		< 独 ドイツ統一の日 >
10/5(月)		9月ISM非製造業景況感指数	(EU)8月小売売上高 < 豪 労働者の日 >
10/6(火)	日銀金融政策決定会合(7日) 国庫短期証券(6ヶ月) 流動性供給入札	8月貿易収支	(独)8月製造業受注 (英)BOE金融政策委員会 (豪)8月貿易収支 (豪)準備銀行理事会
10/7(水)	8月景気動向指数 黒田日銀総裁定例会見	8月消費者信用残高	(独)8月鉱工業生産 (英)8月鉱工業生産・製造業生産 (独)8月貿易収支 (豪)9月失業率
10/8(木)	8月機械受注 9月景気ウォッチャー調査 30年債入札 8月国際収支 国庫短期証券(3ヶ月) 日銀金融経済月報		
10/9(金)	国庫短期証券(2ヶ月程度)	8月卸売在庫 9月輸入物価指数 9月財政収支	
10/11(日)			
10/12(月)	< 体育の日 >	< コロンブス記念日 >	< ブラジル 聖母の日 > (中)9月貿易統計 (独)10月ZEW景気期待指数 (英)9月CPI
10/13(火)	9月消費動向調査 9月貸出・預金動向 日銀金融政策決定会合議事要旨 (9/14-15開催分)		
10/14(水)	5年債入札 9月マネーストック	9月小売売上高 8月企業在庫	(中)9月CPI (EU)8月鉱工業生産 (英)9月失業率
10/15(木)	8月第3次産業活動指数 国庫短期証券(3ヶ月)	9月CPI 10月NY連銀製造業景況感指数 10月フィラデルフィア連銀製造業景況感指数	
10/16(金)	国庫短期証券(1年) 流動性供給入札	9月鉱工業生産 8月対米証券投資	(EU)9月CPI
10/19(月)			(中)7-9月期四半期GDP (中)9月鉱工業生産 (中)9月小売売上高 (中)9月固定資産投資
10/20(火)	20年債入札	9月住宅着工	(独)9月PPI
10/21(水)	9月貿易統計 8月全産業活動指数		< 香港 重陽節 >
10/22(木)	2年債入札 国庫短期証券(3ヶ月)	9月中古住宅販売件数 9月シカゴ連銀全米活動指数 9月景気先行指数	< 印 ダシャラー > (EU)ECB定例理事会 (EU)10月消費者信頼感指数
10/23(金)			
10/24(土)			< 印 イスラム教新年 >

[以降の主要日程]

- < 国債入札 > 2年債(11/27)、5年債(11/17)、10年債(11/5)、20年債(11/25)、30年債(11/12)、40年債(10/27)
- < 日銀金融政策決定会合 > 10/30、11/18-19、12/17-18、1/28-29、3/14-15、4/27-28、6/15-16、7/28-29、9/20-21、10-31-11/1、12/19-20
- < 米・連邦公開市場委員会(FOMC) > 10/27-28、12/15-16、1/26-27、3/15-16、4/26-27、6/14-15、7/26-27、9/20-21、11/1-2、12/13-14
- < ECB定例理事会 > 12/3、1/21、3/10、4/21、6/2、7/21、9/8、10/20、12/8

市場相場動向 (9/28~10/2)

		9/28(月)	9/29(火)	9/30(水)	10/1(木)	10/2(金)		
国内金利	無担保コール	オーバーナイト物	0.076	0.076	0.010	0.076	0.076	
	日本円TIBOR	3ヵ月	0.17091	0.17091	0.17091	0.17091	0.17091	
		6ヵ月	0.25727	0.25727	0.25727	0.25727	0.25727	
	円短期金利先物	15/3限	99.860	99.860	99.855	99.865	99.880	
	利付2年国債	新発債	0.005	0.008	0.009	0.003	0.000	
	利付5年国債	新発債	0.055	0.055	0.060	0.050	0.045	
	利付10年国債	新発債	0.345	0.330	0.345	0.325	0.315	
	利付20年国債	新発債	1.120	1.105	1.125	1.105	1.085	
	債券先物	15/12限	148.15	148.27	148.16	148.33	148.37	
	円/円スワップ	2年	0.09936	0.10832	0.10875	0.10898	0.09865	
5年		0.18000	0.19253	0.19625	0.19666	0.18609		
10年		0.48622	0.49503	0.50499	0.50792	0.49793		
20年		1.11628	1.12003	1.12697	1.13275	1.11916		
海外金利	米金利	FFレート	0.12	0.10	0.05	0.09	0.13	
		TB(3ヵ月)	-0.005	-0.010	-0.020	-0.025	-0.005	
		T-NOTE(10年債)	2.095	2.051	2.037	2.037	1.993	
	L I B O R	日本円(3ヵ月)	0.08371	0.07714	0.08443	0.08357	0.08157	
		米ドル(3ヵ月)	0.32660	0.32550	0.32500	0.32400	0.32710	
		ユーロ(3ヵ月)	(0.04214)	(0.04071)	(0.04071)	(0.04571)	(0.04429)	
		英ポンド(3ヵ月)	0.58688	0.58313	0.58313	0.58063	0.58438	
		スイスフラン(3ヵ月)	(0.72700)	(0.73300)	(0.73300)	(0.73300)	(0.73100)	
豪ドル(3ヵ月)	2.19000	2.18000	2.16000	2.16000	2.17000			
NZドル(3ヵ月)	2.84500	2.85500	2.85500	2.85000	2.83000			
外国為替	東京	ドル・円(仲値)	120.46	119.80	119.95	119.87	119.91	
		ユーロ・円(仲値)	134.87	134.72	135.00	133.95	134.18	
		豪ドル・円(仲値)	84.74	83.50	84.07	84.15	84.42	
		NZドル・円(仲値)	76.91	75.53	76.47	76.72	76.80	
		ドル・円(15:30時点)	120.29	119.38	119.92	120.21	120.08	
		ユーロ・円(15:30時点)	134.36	134.62	134.73	133.97	134.11	
		ユーロ・ドル(15:30時点)	1.1170	1.1277	1.1235	1.1145	1.1168	
		ドル円直先スプレッド(3ヵ月、銭/ドル)	d 17.3	d 26.2	d 24.4	d 24.0	d 24.3	
	NY	ドル・円	119.92	119.74	119.88	119.93	119.91	
		ユーロ・ドル	1.1244	1.1249	1.1177	1.1195	1.1216	
		英ポンド・ドル	1.5174	1.5151	1.5128	1.5131	1.5185	
		スイスフラン・ドル	0.9737	0.9718	0.9733	0.9772	0.9715	
	株式	東京	日経平均(225種/円)	17645.11	16930.84	17388.15	17722.42	17725.13
			東証株価指数(TOPIX)	1438.67	1375.52	1411.16	1442.74	1444.92
日経ジャスダック指数			2491.70	2439.44	2456.15	2466.94	2475.60	
東証マザーズ指数			779.31	750.50	767.12	774.01	784.25	
東証1部売買高(百万株)			1931.39	2794.16	2583.15	2314.78	1886.80	
海外		NYダウ(ドル)	16001.89	16049.13	16284.70	16272.01	16472.37	
		ナスダック総合指数	4543.97	4517.32	4620.17	4627.08	4707.78	
		中国上海総合指数	3100.76	3038.14	3052.78	-	-	
		SENSEX(インド)	25616.84	25778.66	26154.83	26220.95	-	
		ブラジルボベスパ指数	43956.63	44131.82	45059.34	45313.27	47033.46	
MICEX指数(ロシア/ドル建)	1616.36	1630.51	1642.97	1626.97	1612.56			
商品	金(NY先物、期近)(ドル)	1131.70	1127.10	1115.50	1114.20	1137.10		
	原油(WTI先物、期近)(ドル)	44.43	45.23	45.09	44.74	45.54		
	CRB先物指数	192.80	193.57	193.76	192.51	194.11		

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください